

令和5年度
上野法律ビジネス専門学校
学校関係者評価委員会結果報告書

令和 6 月 28 日

学校法人上野教育学園
上野法律ビジネス専門学校
理事長 久保田 高永

令和 5 年度学校関係者評価報告

学校法人上野法律学園上野法律ビジネス専門学校では、本校規程に基づき、学校関係者評価委員会を令和 6 年 6 月 19 日に開催いたしました。以下に、その内容をご報告いたします。

今後教職員一同は、各評価委員よりのご意見等を踏まえまして、教職員一同は更なる専教育内容の向上及び適正な学校運営の確保に努めていく所存でございます。

引き続き、一層のご支援、ご協力を宜しくお願いいたします。

1. 学校関係者評価委員名簿および学内出席者

氏名	所属	役職等
土川 英司	盛岡市材木町商店街振興組材木町青友会	会長
安藤 貴弘	株式会社東北銀行	夕顔瀬支店長
清水 友博	盛岡市役所（本校卒業生）	市長公室企画調整課都市戦略室
野中 美優	社会福祉法人 手をつなぐ（本校卒業生）	手をつなぐ安心生活支援センター
和田 勝弘	上野法律ビジネス専門学校	副校長
佐々木 茂	上野法律ビジネス専門学校	教務課
秋庭 裕史	上野法律ビジネス専門学校	教務課
恩田 陽子	上野法律ビジネス専門学校	教務課
工藤 正剛	上野法律ビジネス専門学校	教務課

2. 委員会次第

- (1) 開会・委員長挨拶
- (2) 委員紹介
- (2) 学校関係者評価委員会の趣旨・目的等の説明
- (3) 令和 5 年度本校取組・自己評価等の結果報告及び質疑応答
- (4) 令和 6 年度本校取組について質疑応答
- (5) 閉会

3. 内容

副校長和田勝弘より、開会挨拶の後、教務課佐々木茂より委員の紹介・委員会の趣旨・目的等の説明を行った後、令和5年度自己評価等の結果を、教務課佐々木茂より、各評価項目について報告を行った。その後、当該報告に基づいて、関係者委員の皆様と質疑応答を行い、意見提言を受けた。

(1) 教育理念・教育目標

5つの評価項目とも全て最高評価を付けた。令和5年度は保護者の人数制限をせずに入学式・卒業式を行い、学生・保護者とも当校の理念・教育目標を伝えることができた。また、学生には学生ハンドブックにより更に深く理解させることができている。

(2) 学校運営

就業規則を改正し、より教職員の業務に即した就業体制を構築した。また、SNSを利用した職員間の連絡事項の効率化が図られた。

(3) 教育活動

コロナ禍も明け、対面での研修に参加することができた。教務関係・就職関係（外国人の就職）、新しい学校像やメンタルヘルスの研修を受けた。例年通り卒業生・保護者に関するアンケートは実施している。

(4) 学修成果

就職率は昨年度と同様に99%の就職率であった。留学生も大手ホテルに内定し、職業実践専門課程の成果がでてきていると思われる。

昨年の指摘である精神的理由による退学の対策については、精神疾患の基本について教員が岩手県産業保健総合支援センターにてメンタルヘルスの講習を受講しており今後の学生に対応に活かしていきたい。

また、評価委員から首都圏と地元の就職状況について質問を受けた。コロナ禍では地元志向が強かったがコロナ禍が明け賃金格差もあり首都圏希望の学生が増加傾向にある。また、他の委員から地元企業では初任給アップは厳しい企業が多く、景気の良い企業と悪い企業との2極化進んでいるとの提言を受けた。

また、今年度は学校開校30周年であり、記念講演会を10月に開催する予定である。

(5) 学生支援

退学率の軽減のために受講したメンタルヘルスセミナーでは、精神に関する病気は心の病気ではなく、脳の病気であることを理解することが大切であり、病院も精神科だけではなく、内科や保健スタッフなど診察の垣根を低くしていくことが学生支援につながることを学んだ。

キャリア教育では当校日本語学科において、日本に来日して働いている外国人向けに夜間 WEB 講座にて日本語を教えている。今後も来日外国人向けのキャリア教育は増加していくものと思われる。

(6) 教育環境

法令に従い必要な施設設備の点検・修理修繕等を行っている。また、火災避難訓練・地震防災訓練等を定期的に行い防災意識を高めている。

毎日の清掃と職員による確認・定期的には大掃除を実施しており衛生環境も問題なく保たれている。

(7) 学生募集

高校内で実施されるガイダンス・説明会も増加しており、学校情報だけではなく、公務員試験情報なども提供し好評を得ている。来校した高校生・保護者の方々には就職実績などの的確に説明している。

(8) 財務

日本人学生は1学年が微増・2学年が半減と厳しい状況であったが、留学生の倍増で全体としては微増という結果であった。

(9) 法令遵守

4つの項目すべて昨年度と変わらず、最高評価にしている。

(10) 社会貢献・地域貢献

コロナ禍も明け各種ボランティア活動も復活しており学生に広く告知している。地域のお寺のお祭りが再開し留学生がお祭りに参加した。お祭りに参加する地域住民が減少しているので今後も留学生中心に地域貢献していきたい。

(11) 国際交流

令和5年度はビジネス・公務員両学科で留学生との交流が進んだ。今後もこの交流については強化していきたい。

評価委員から盛岡がニューヨークタイムスの記事で取り上げられてから注目を受けることが多いが外国人が何を求めているかを的確に把握する必要がある、留学生向けの盛岡に関するアンケートについて説明があった。当校もアンケートに協力していく旨回答した。なお、外国人(留学生)はあまり食について重視しておらず、何気ない風景など日本ならではの特徴(安全・清潔・美しい自然)を重視していることがわかった。

また、別の委員からもことさら構える必要は無く、今までの盛岡を維持いくことが重要であるとの提言を受けた。

当校もまだまだ留学生に関する課題は多い。日本字との共生は文化の違いもあり難しいと感じる場面もあると回答した。

最後に公務員系学科の状況を発表した。公務員試験は 昨年度、一次試験、二次試験ともに90%以上と高い実績だった。この実績は維持していきたい。量的には限りなく100%に近づけ、質的には第一志望に採用されるよう導いていきたい。学生の満足度を高めるため、教育内容、教務内容をいかに実現していくか。一つひとつの授業を確実に実施する。学生との間にいかに信頼関係を築くかも大事である。

4. まとめ

令和5年度は就職・公務員試験ともに好調であったが、今後は留学生の増加により特に就職が難しくなることが予想される。今後も岩手の専門学校として地元役に役立つ視点、国際交流の視点等を大切に、今後も地域社会や企業・団体等との連携を図りながら、変化する社会に対応できる人物の育成を行う専門学校として発展ができるように、教職員全員で協力して努めていくことを確認して閉会した。

以上